

国島勢以 歌人，教育者。痘瘡後のあばたで結婚あきらめるも，桜田門外の変の作歌で森春濤と出会い，夫婦呼応の生涯。
くにしませい
天保大飢饉始1833 = 美濃国稲葉郡古市場村(岐阜市)で，旧家国島治右衛門の三女に生まれる。清，清子ともいう。

大塩平八郎乱1837 = 4歳：
_幼時に痘瘡にかかりあばたが残ったため，

天保改革弾圧1842 = 9歳：

阿部正弘首座1845 = 12歳：
_結婚をあきらめて家の離れに住み，
漢学を桑名の富樫広蔭に，和歌を京都の熊谷直兄に学ぶ。

尊徳報徳論・1851 = 18歳：

ペリー来航・1853 = 20歳：

_早くから勤王思想に関心をもち，ひそかに藤本鉄石・頼三樹三郎らと交際していて，

桜田門外変・1860 = 27歳：*桜田門の変直後に，"障る雲消ゆと見し間に月は入りて残る夜くらし武蔵野の原"と詠み，世に伝わり水戸家にも聞えたという。そのころ森春濤は岐阜に来て，漢詩の指導をしていたが，勢以の和歌を知り，天寿院の住職大矢掃雲を介して近詠を求めた。"雨晴るる浅沢水のかきつはた初花咲けり葉かくれにして"と勢以は答え，春濤はまた漢詩で恋の思いを伝えた。
生麦事件・・1862 = 29歳：*(2度目の妻を失っていた)44歳の春濤と結婚。春濤はこのとき妻の醜さを誇る詩を作る。

2人は名古屋に出て泰次郎をもうけた。のちの森槐南である。夫は明倫堂の助教授，妻は和歌を教えて暮したが，春濤は2年の旅ののち上京，

明治維新・・1868 = 35歳：

戊辰戦争終・1869 = 36歳：

廃藩置県・・1871 = 38歳：勢以は女学校の教師となる。別れ住む2人は頻繁に手紙をやり取りし，勢以は学校のこと，息子の様子などを細々と書き送った。

学問のすすめ1872 = 39歳：_急病にかかり，没した。
春濤は「国島女教師之墓」と墓碑名を記し，妻の死を悼む詩「悼亡」を書いた。歌集「庭すずめ」2冊が椀南により出版された。